

令和6(2024)年度登録販売者試験問題

栃木県

(令和6(2024)年8月29日 **後半**)

分野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用(40問)	60問	120分
2	医薬品の適正使用と安全対策(20問)		

◎ 指示があるまで開かないこと。

◎ 注意事項

- この試験問題における「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」(昭和35年法律第145号)は、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記する。
- この試験問題は問61から問120までの60問である。
解答は、解答用紙に書いてあるマーク記入例に従い、決められたところを鉛筆で塗りつぶす(マークする)こと。
枠外にはみ出したり、マークが短かったり、2箇所以上をマークすると、その問題は採点されず無効となる。
- 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者については、試験を無効とし、または合格を取り消すことがある。
- 解答用紙は折り曲げたり、汚したりしないこと。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払っておくこと。
- 退室する際には、解答用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従うこと。
- この問題用紙は持ち帰ることができる。

◎ 問題用紙は、表紙を含め16枚である。最終ページは、29ページである。
試験開始後、すぐに確かめること。

主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 かぜ及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜは、生体に備わっている免疫機構によってウイルスが消滅すれば自然に治癒するため、安静にして休養し、栄養・水分を十分に摂ることが基本である。
- b かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称である。
- c かぜ薬は、かぜの諸症状の緩和のほか、ウイルスの増殖抑制や体内からの除去を目的として使用される医薬品の総称である。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正
5	正	正	誤

【問62】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力充実して、かぜのひきはじめて、寒気がして発熱、頭痛があり、咳^{せき}が出て身体^{せき}のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされるが、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、悪心、胃部不快感、発汗過多、全身脱力感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 麻黄湯^{まおうとう}
- 2 小青竜湯^{しょうせいりゅうとう}
- 3 小柴胡湯^{しょうさいこうとう}
- 4 柴胡桂枝湯^{さいこけいしとう}

【問 6 3】 解熱鎮痛成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アセトアミノフェンには血液を凝固しにくくさせる作用があり、医療用医薬品として、血栓ができやすい人に対する血栓予防薬の成分としても用いられる。
- b イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。
- c アスピリンはイブプロフェンに比べて胃腸への悪影響が少ない。
- d エテンザミドは、水痘（水疱瘡）又はインフルエンザにかかっている 15 歳未満の小児に対しては使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	誤
5	誤	正	正	正

【問 6 4】 眠気を促す薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、睡眠改善薬として一時的な睡眠障害の緩和に用いられる。
- b 小児及び若年者では、抗ヒスタミン成分により眠気とは反対の神経過敏や中枢興奮が現れることがある。
- c ジフェンヒドラミン塩酸塩は、抗ヒスタミン成分の中でも眠気を促す作用が特に強い。
- d 神経の興奮緩和や緊張緩和を期待してホップが配合されている製品がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問 6 5】 眠気を防ぐ薬（眠気防止薬）とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 眠気防止薬には、眠気を抑える成分として、チアミン塩化物塩酸塩が配合されている場合がある。
- b カフェインは、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の減少をもたらす。
- c かぜ薬やアレルギー用薬を使用したことによる眠気を抑えるために、眠気防止薬を使用するのは適切ではない。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	誤	正
4	正	誤	正

【問 6 6】 ブロモバレリル尿素を含む医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 反復して摂取しても依存を生じることはない。
- b 胎児に障害を引き起こす可能性があるため、妊婦又は妊娠していると思われる女性は使用を避けるべきである。
- c 酒とともに服用すると、その薬効や副作用が増強されるおそれがある。
- d 使用した後は乗物や危険を伴う機械類の運転操作は避けるべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

【問67】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 眠気を促す作用があるため、乗物の運転操作をするときは、抗コリン成分を含む乗物酔い防止薬の使用を控える必要がある。
- b ジフェニドール塩酸塩は、抗ヒスタミン成分と共通する類似の薬理作用を示し、海外では制吐薬やめまいの治療薬として使われてきた。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが早く、持続時間が長いため、乗物酔い防止薬に配合されることが多い。
- d スコポラミン臭化水素酸塩水和物は、抗ヒスタミン成分と比べて作用の持続時間が長い。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問68】 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 小児鎮静薬は、夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- b 小児鎮静薬を保護者側の安眠を図ることを優先して使用することは適当ではない。
- c ジンコウは、ウシ科のサイカレイヨウ等の角を基原とする生薬で、緊張や興奮を鎮める作用等を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正

【問69】 鎮咳去痰薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジプロフィリンは、自律神経系を介して気管支の平滑筋を弛緩させ、気管支を拡張させる。
- b ノスカピンは、麻薬性鎮咳成分とも呼ばれ、長期連用や大量摂取によって多幸感が現れることがあり、薬物依存につながるおそれがある。
- c カルボシステインは、痰の中の粘性タンパク質を溶解・低分子化して粘性を減少させる。
- d トラネキサム酸は、気道の炎症を和らげることを目的として配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

【問70】 次の記述にあてはまる鎮咳去痰薬に配合される生薬成分として、最も適切なものはどれか。

ユリ科のジャノヒゲの根の膨大部を基原とする生薬で、鎮咳、去痰、滋養強壮等の作用を期待して用いられる。

- 1 シャゼンソウ
- 2 キキョウ
- 3 バクモンドウ
- 4 ゴミシ
- 5 セネガ

【問 7 1】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ポビドンヨードが配合された含嗽薬は、その使用によって銀を含有する歯科材料（義歯等）を変色させることがある。
- b アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、口腔内や喉に付着した細菌等の微生物を死滅させることやその増殖を抑えることを目的として用いられる。
- c クロルヘキシジン塩酸塩は、炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して用いられる。
- d 日本薬局方収載の複方ヨード・グリセリンは、グリセリンにヨウ化カリウム、ヨウ素等を加えたもので、喉の患部に塗布して殺菌・消毒に用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 7 2】 強心薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 強心薬は、疲労やストレス等による軽度の心臓の働きの乱れについて、心臓の働きを整えて、動悸や息切れ等の症状の改善を目的とする医薬品である。
- b ロクジョウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬である。
- c ゴオウは、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇等の作用があるとされる。
- d センソは、一般用医薬品で1日用量を5 mg以下となるよう用法・用量が定められている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 3】 高コレステロール改善薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a パンテチンは、高密度リポタンパク質（HDL）の異化排泄^{せつ}を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高める作用がある。
- b リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなった場合、直ちに使用を中止する必要がある。
- c 高コレステロール改善薬の服用は、食事療法、運動療法の補助的な位置づけである。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	誤

【問 7 4】 貧血用薬（鉄製剤）とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 鉄製剤を服用すると、便が黒くなることがある。
- b マンガンは、ヘモグロビンの産生過程で、鉄の代謝や輸送に重要な役割を持つ。
- c ビタミンCは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。
- d 鉄製剤の服用の前後30分にタンニン酸を含む緑茶やコーヒー等を摂取すると、タンニン酸と反応して鉄の吸収が促進される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 5】 循環器用薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、冷え症及び血色不良に用いられる。
- b ヘプロニカートは、ビタミン様物質の一種で、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- c ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示す。
- d 三黄瀉心湯^{さんおうしやしんとう}は、構成生薬としてダイオウを含み、本剤を使用している間は、瀉下薬^{しゃ}の使用を避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	正
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	誤

【問 7 6】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以上で、のぼせて便秘しがちなものの月経不順、月経困難症、月経痛、月経時や産後の精神不安、腰痛、便秘、高血圧の随伴症状（頭痛、めまい、肩こり）、痔疾^じ、打撲症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 四物湯^{しもつとう}
- 2 桃核承気湯^{とうかくじょうきとう}
- 3 当归芍薬散^{とうきしゃくやくさん}
- 4 牛車腎気丸^{ごしやじんきがん}
- 5 八味地黄丸^{はちみじおうがん}

【問 7 7】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服液を含む。）及びアレルギー症状に対する受診勧奨に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品のアレルギー用薬は、長期の連用は避け、5～6日間使用しても症状の改善がみられない場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
- b 一般用医薬品（漢方処方製剤を含む。）には、アトピー性皮膚炎による慢性湿疹^{しん}等の治療に用いることを目的とするものはないことから、アトピー性皮膚炎が疑われる場合やその診断が確定している場合は、医師の受診を勧めることが重要である。
- c 皮膚感染症（たむし、疥癬^{かいせん}等）により、湿疹やかぶれ等に似た症状が現れることがある。その場合には、皮膚感染症そのものに対する対処よりも、アレルギー用薬によって一時的に痒み^{かゆ}等の緩和を図ることを優先する必要がある。
- d 医薬品が原因となってアレルギー症状を生じることがもあり、使用中に症状が悪化・拡大したような場合には、医薬品の副作用である可能性を考慮し、その医薬品の服用を中止して、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 8】 内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジフェンヒドラミン塩酸塩は、母乳を与える女性は使用を避けるか、使用する場合には授乳を避ける必要がある。
- b プソイドエフェドリン塩酸塩は、前立腺肥大による排尿困難の症状がある人では、症状を悪化させるおそれがあり、使用を避ける必要がある。
- c ベラドンナ総アルカロイドは、鼻腔内の刺激^{くう}を伝達する交感神経系の働きを抑えることによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として配合される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	正	誤

【問 79】 鼻に用いる薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分		配合目的
a	ナファゾリン塩酸塩	—	鼻粘膜の充血や腫れを和らげる
b	クロモグリク酸ナトリウム	—	鼻粘膜を清潔に保ち、細菌による二次感染を防止する
c	リドカイン	—	鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み ^{かゆ} を抑える
d	ケトチフェンフマル酸塩	—	くしゃみや鼻汁等の症状を緩和する

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 80】 一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 検査に用いる検体は、尿、糞便^{ふん}、血液、鼻汁、唾液、涙液など採取が容易なものである。
- b 悪性腫瘍の早期発見にも用いられる。
- c 販売を行う際には、専門的診断におきかわるものでないことについてわかり易く説明する。
- d 検体中の対象物質の濃度が極めて低いため検出反応が起こらずに、検査結果が陰性となった場合を偽陽性という。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	誤

【問 8 1】 胃腸に作用する薬の成分について次のうち、胃粘膜の炎症を和らげることを目的として配合されているものはどれか。

- 1 プロザイム
- 2 センブリ
- 3 セルラーゼ
- 4 スクラルファート
- 5 カンゾウ

【問 8 2】 胃腸に作用する薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 消化を助け、胃もたれを改善し、胃をすっきりさせる効果を主とする製剤は、食間や就寝前の服用のことが多い。
- b センナ、センノシドは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行することが知られており、乳児に下痢を生じるおそれがある。
- c 制酸薬は、胃内容物の刺激によって分泌促進される胃液から胃粘膜を保護することを目的として服用されるが、暴飲暴食による胸やけ、吐きけ、嘔吐等の症状を予防するものではない。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	正	誤
5	誤	誤	正

【問 8 3】 腸の不調に対する受診勧奨に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 瀉下薬が手放せなくなっているような慢性の便秘については、漫然と継続使用するよりも、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
- b 過敏性腸症候群の便通障害のように下痢と便秘が繰り返し現れるものがあり、症状が長引くような場合には、医師の診療を受けるなどの対応が必要である。
- c 便秘の時に腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔吐が現れた場合には、急性腹症の可能性があるため、安易に瀉下薬を使用せずに医師の診療を受けるなどの対応が必要である。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	正
4	誤	誤	誤

【問 8 4】 腸の薬の配合成分とその作用との関係の正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分		作用
a	ビサコジル	—	瀉下
b	ベルベリン塩化物	—	瀉下
c	ヒマシ油	—	止瀉
d	タンニン酸アルブミン	—	止瀉

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 8 5】 胃腸鎮痛鎮痙薬とその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 下痢に伴う腹痛については、基本的に下痢への対処が優先され、胃腸鎮痛鎮痙薬の適用となる症状でない。
- b オキセサゼインは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用があるとされ、妊娠中や小児における安全性も確立されている。
- c パパペリン塩酸塩は、消化管の平滑筋に直接働いて胃腸の痙攣を鎮める作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	誤	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正

【問 8 6】 胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれている成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなるおそれがあるため、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- b ブチルスコポラミン臭化物は、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることが知られている。
- c アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、15歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- d 抗コリン成分のうち、オキシフェンサイクリミン塩酸塩は、副交感神経系の働きを抑える作用が消化管に限定される。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (a、d) 4 (b、c) 5 (b、d)

【問 8 7】 浣腸薬及び駆虫薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 浣腸薬を繰り返し使用すると、直腸の感受性の低下が生じて効果が弱くなる。
- b 複数の駆虫薬を併用すると駆虫効果が高まる。
- c カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	誤	誤
3	正	誤	正
4	誤	正	正

【問 8 8】 次の表は、ある外用痔疾用薬に含まれている成分の一覧である。

1 g 中	
プレドニゾン酢酸エステル	1 mg
リドカイン	30 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2 mg
アラントイン	10 mg
トコフェロール酢酸エステル	30 mg
セチルピリジニウム塩化物水和物	2 mg
ナファゾリン塩酸塩	0.3 mg

この外用痔疾用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 痔による肛門部の炎症や痒みを和らげる成分として、プレドニゾン酢酸エステルが配合されている。
- b この医薬品に配合されているリドカインは、まれに重篤な副作用としてショック（アナフィラキシー）を生じることがある。
- c 血管収縮作用による止血効果を期待して、クロルフェニラミンマレイン酸塩が配合されている。
- d 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、アラントインが配合されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 89】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で、疲れやすくて尿量減少又は多尿で、ときに手足のほてり、口渇があるものの排尿困難、残尿感、頻尿、むくみ、^{かゆ}痒み、夜尿症、しびれに適すとされるが、胃腸が弱く下痢しやすい人では、胃部不快感、腹痛、下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 ^{ちよれいとう}猪苓湯
- 2 ^{ろくみがん}六味丸
- 3 ^{せいじょうぼうふうとう}清上防風湯
- 4 ^{けいしぶくりようがん}桂枝茯苓丸

【問 90】 眼科用薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはない。
- b 別の人が使用している点眼薬は、容器の先端が^{しやう}睫毛（まつげ）に触れる等して中身が汚染されている可能性があるため、共用は避ける必要がある。
- c 一般点眼薬は、涙液成分を補うことを目的とするもので、目の疲れや乾き、コンタクトレンズ装着時の不快感等に用いられる。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 誤 | 正 | 正 |
| 4 | 誤 | 誤 | 誤 |

【問 91】 眼科用薬の配合成分とその配合目的との関係について、正しいものの組合せはどれか。

	配合成分		配合目的
a	硫酸亜鉛水和物	—	結膜 ^{のう} 囊の洗浄・消毒
b	コンドロイチン硫酸ナトリウム	—	角膜の乾燥を防ぐ
c	グリチルリチン酸二カリウム	—	眼粘膜の組織修復を促す
d	ネオスチグミンメチル硫酸塩	—	目の調節機能を改善する

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 9 2】 皮膚に用いる薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a スプレー剤は強い刺激を生じるおそれがあるため、目の周囲へ使用する場合は、患部から十分離して噴霧することが望ましい。
- b 塗り薬は薬剤を容器から直接指に取り、患部に塗布したあと、また指に取ることを繰り返し、患部に塗布することが望ましい。
- c 外皮用薬を使用する際には、適用する皮膚表面に汚れや皮脂が多く付着していると有効成分の浸透性が低下するため、患部を清浄にしてから使用することが重要である。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	誤

【問 9 3】 次のうち、ステロイド性抗炎症成分として、正しいものの組合せはどれか。

- a デキサメタゾン
- b ケトプロフェン
- c インドメタシン
- d ヒドロコルチゾン酪酸エステル

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 9 4】 次のビタミンのうち、歯槽膿漏薬において、歯周組織の血行を促す効果を期待して配合されているものはどれか。

- 1 ビタミンA
- 2 ビタミンB₁
- 3 ビタミンC
- 4 ビタミンE
- 5 ビタミンK₁

【問 9 5】 禁煙補助剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ^{そしゃく}咀 嚼 剤は、菓子^かのガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれるため、吐きけや腹痛等の副作用が現れにくい。
- b ニコチンは交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。
- c うつ病と診断されたことのある人では、禁煙時の離脱症状により、うつ症状を悪化させることがあるため、禁煙補助剤の使用を避ける必要がある。
- d ニコチン離脱症状を軽減しながら、徐々に禁煙補助剤の使用量を減らしていくこととし、初めから無理に減らそうとしないほうが、結果的に禁煙達成につながる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	誤	正

【問 9 6】 滋養強壯保健薬の配合成分とその配合目的との関係の正誤について、正しい組合せはどれか。

	配合成分	配合目的
a	アスコルビン酸ナトリウム	－ 目の乾燥感、夜盲症の症状の緩和
b	トコフェロール酢酸エステル	－ 手足のしびれ・冷え、しもやけの症状の緩和
c	チアミンジスルフィド	－ 神経痛、筋肉痛・関節痛の症状の緩和
d	ピリドキシン塩酸塩	－ 目の充血、目の痒み ^{かゆ} の症状の緩和

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	正	正
5	正	正	誤	正

【問 9 7】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後 3 ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- b 漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。
- c 一般用医薬品に用いることが出来る漢方処方製剤においては、「しぼり」（使用制限）という漢方の専門用語を使用することを避け、「証」として記載が行われている。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

【問 9 8】 生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a サイコは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。
- b ブクリョウは、サルノコシカケ科のマツホドの菌核で、通例、外層をほとんど除いたものを基原とする生薬で、利尿、健胃、鎮静等の作用を期待して用いられる。
- c ブシは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮^{けい}瘧等の作用を期待して用いられる。
- d カッコンは、キンポウゲ科のハナトリカブト又はオクトリカブトの塊根を減毒加工して製したものを基原とする生薬であり、心筋の収縮力を高めて血液循環を改善する作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 9 9】 消毒薬とその成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a イソプロパノールは、ウイルスに対する不活性効果がエタノールよりも高い。
- b 器具等の殺菌・消毒を目的とする製品は、医薬部外品として流通することが認められている。
- c ジクロロイソシアヌル酸ナトリウムは、塩素臭や刺激性、金属腐食性が比較的抑えられており、プール等の大型設備の殺菌・消毒に用いられることが多い。
- d 次亜塩素酸ナトリウムやサラシ粉などの塩素系殺菌消毒成分は、金属腐食性があるとともに、プラスチックやゴム製品を劣化させる。

1 (a、c) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (b、d) 5 (c、d)

【問 1 0 0】 次の記述にあてはまる衛生害虫の防除を目的とする殺虫剤の成分として、最も適切なものはどれか。

アセチルコリンを分解する酵素と不可逆的に結合してその働きを阻害することにより殺虫作用を示す。

- 1 ダイアジノン
- 2 メトキサジアゾン
- 3 ペルメトリン
- 4 メトプレン
- 5 オルトジクロロベンゼン

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 添付文書の重要な内容が変更された場合には、改訂年月の記載は必須ではないが、改訂された箇所を明示することとされている。
- b 購入時に医薬品の販売等に従事する専門家から直接情報提供を受けた購入者以外の家族等がその医薬品を使用する際には、添付文書に目を通し、使用上の注意等に留意して適正に使用されることが特に重要である。
- c 添付文書の販売名の上部には、「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと。また、必要なときに読めるよう大切に保存すること。」等の文言が記載されている。
- d 販売名に薬効名が含まれているような場合でも（例えば、「〇〇〇胃腸薬」など）、添付文書に薬効名を必ず記載する必要がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	誤	正
3	誤	誤	正	誤
4	正	正	正	正
5	誤	正	正	誤

【問102】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について正しい組合せはどれか。

- a 使用上の注意は、「してはいけないこと」、「相談すること」及び「その他の注意」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。
- b 「服用前後は飲酒しないこと」等、小児では通常当てはまらない内容については、小児に使用される医薬品には記載されない。
- c 重篤な副作用として、ショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群等が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	正	誤	正

【問 1 0 3】 一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項目中に、目のかすみ、異常なまぶしさを生じることがあるため、「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」と記載されている成分はどれか。

- 1 テオフィリン
- 2 オキセサゼイン
- 3 ピロキシカム
- 4 ピレンゼピン塩酸塩水和物
- 5 サリチルアミド

【問 1 0 4】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「透析療法を受けている人」と記載されている成分として、正しいものの組合せはどれか。

- a 合成ヒドロタルサイト
- b スクラルファート
- c タンニン酸アルブミン
- d イソプロピルアンチピリン

- 1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

【問 1 0 5】 一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の「次の診断を受けた人」の項目中に記載される基礎疾患等と、それに関連する主な成分に関する組合せのうち、誤っているものはどれか。

基礎疾患等		主な成分
1 糖尿病	—	トリメトキノール塩酸塩水和物
2 甲状腺機能障害	—	イブプロフェン
3 てんかん	—	ジプロフィリン
4 緑内障	—	パパベリン塩酸塩

【問 1 0 6】 一般用医薬品の添付文書の「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に、「15 歳未満の小児」と記載されている成分として、誤っているものはどれか。

- 1 サリチル酸ナトリウム
- 2 アセトアミノフェン
- 3 ロペラミド
- 4 プロメタジン塩酸塩
- 5 アスピリンアルミニウム

【問 1 0 7】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

3錠中	
グアイフェネシン	60 mg
ジヒドロコデインリン酸塩	8 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	20 mg
アセトアミノフェン	300 mg
クロルフェニラミンマレイン酸塩	2.5 mg
無水カフェイン	25 mg
リボフラビン	4 mg

次のうち、このかぜ薬の添付文書の「相談すること」の「次の症状のある人」の項目中に記載されている事項として、正しいものはどれか。

- 1 むくみ
- 2 はげしい目の痛み
- 3 排尿困難
- 4 吐き気・嘔吐おう

【問 1 0 8】 一般用医薬品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 錠剤、カプセル剤及び散剤は、冷蔵庫内での保管が望ましい。
- b 添付文書には、病気の予防・症状の改善につながる事項（いわゆる「養生訓」）について、必ず記載されている。
- c 添付文書には、製造販売業の許可を受け、その医薬品について製造責任を有する製薬企業の名称及び所在地が記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	誤	誤	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

【問 1 0 9】 一般用医薬品の製品表示に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 配置販売される医薬品の使用期限の表示は、「配置期限」と記載される場合がある。
- b 使用期限の表示については、適切な保存条件の下で、製造後 3 年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品においても、医薬品医療機器等法上の表示義務がある。
- c 購入者によっては、購入後すぐ開封せずにそのまま保管する場合や持ち歩く場合があるため、添付文書を見なくても適切な保管がなされるよう、その容器や包装にも、保管に関する注意事項が記載されている。

	a	b	c
1	正	正	誤
2	正	正	正
3	誤	誤	正
4	正	誤	正

【問 1 1 0】 医薬品の添付文書情報等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療用医薬品の最新の添付文書は、(独) 医薬品医療機器総合機構のホームページで公表されている。
- b 一般用医薬品の添付文書に「使用上の注意」として記載される内容は、配合成分等の記載からある程度読み取ることが可能である。
- c 令和 3 年 8 月 1 日から、医療用医薬品への紙の添付文書の同梱は廃止されたが、一般用医薬品には引き続き紙の添付文書が同梱されている。

	a	b	c
1	誤	正	誤
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	正	正	正

【問 1 1 1】 (独) 医薬品医療機器総合機構のホームページに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品等の製品回収に関する情報が掲載されている。
- b 患者向医薬品ガイドは掲載されていない。
- c 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報が掲載されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	正
3	正	誤	誤
4	正	正	誤
5	正	正	正

【問 1 1 2】 一般用医薬品を適正に使用するための情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般用医薬品のリスク区分のうち、第二類医薬品は、その副作用等により日常生活に支障を来す程度の健康被害が生ずるおそれはない。
- b 添付文書や外箱表示は、それらの記載内容が改訂された場合、実際にそれが反映された製品が流通し、購入者等の目に触れるようになるまでには一定の期間を要する。
- c 一般の生活者が接する医薬品の有効性や安全性等に関する情報は、断片的かつ必ずしも正確でない情報として伝わっている場合も多く、医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等に対して科学的な根拠に基づいた正確なアドバイスを与え、セルフメディケーションを適切に支援することが期待されている。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	誤	正	誤
3	誤	誤	正
4	誤	正	正

【問 1 1 3】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づき、医薬関係者が行う医薬品の副作用等の報告において、報告様式（医薬品安全性情報報告書）の記入欄の項目として、誤っているものはどれか。

- 1 患者氏名
- 2 性別
- 3 副作用等発現年齢
- 4 原疾患・合併症
- 5 併用薬

【問 1 1 4】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 2 項の規定に基づき、医薬関係者が行う医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品との因果関係が明確でなければ報告の対象とならない。
- b 令和 3 年 4 月から、ウェブサイトに入力することによる電子的な報告が可能となった。
- c 安全対策上必要があると認めるときは、医薬品の過量使用や誤用等によるものと思われる健康被害についても報告する必要がある。
- d 報告にあたっては、報告様式の記入欄すべてに記入がなされる必要がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	誤	正
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	正	正

【問 1 1 5】 医薬品医療機器等法第 68 条の 10 第 1 項の規定に基づき、医薬品の製造販売業者が、その製造販売した医薬品について行う国内事例の副作用等の報告のうち、15 日以内に厚生労働大臣に報告することとされている事項に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、市販直後調査などによって得られた事例。
- b 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できるもので、重篤（死亡を除く）であり、新有効成分含有医薬品として承認後 2 年以内の事例。
- c 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、使用上の注意から予測できないもので、非重篤な事例。
- d 医薬品によるものと疑われる副作用症例のうち、発生傾向が使用上の注意等から予測することが出来ないもので、重篤（死亡を含む）な事例。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	誤	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	正	誤	正
5	正	誤	正	誤

【問 1 1 6】 医薬品副作用被害救済制度の救済給付に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 給付の種類としては、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料がある。
- b 医療費は、医薬品の副作用による疾病の治療に要した費用を実費補償するもので請求期限が定められていない。
- c 遺族一時金とは、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族の生活の立て直し等を目的として給付されるものである。
- d 遺族年金とは、生計維持者以外の人が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族に対する見舞等を目的として給付されるものである。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	誤	誤	誤
5	正	誤	正	正

【問 1 1 7】 医薬品副作用被害救済制度の支給対象範囲に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 添付文書や外箱等に記載されている用法・用量、使用上の注意に従わない医薬品の不適正な使用による健康被害についても、救済給付の対象となる。
- b 医薬品を適正に使用して生じた健康被害であって、医療機関での治療を要せずに寛解した軽度なものについても給付対象に含まれる。
- c 救済制度の対象とならない医薬品が定められており、一般用医薬品の殺虫剤はこれに該当する。
- d いわゆる健康食品として販売された無承認無許可医薬品の使用による健康被害については、救済制度の対象から除外されている。

1 (a 、 c) 2 (a 、 d) 3 (b 、 c) 4 (b 、 d) 5 (c 、 d)

【問 1 1 8】 医薬品 P L センターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a (独) 医薬品医療機器総合機構において、製造物責任法の施行と同時に開設された。
- b 消費者が医薬品又は医薬部外品に関する苦情について製造販売元の企業と交渉するに当たって、消費者側の立場に立って交渉の仲介や調整・あっせんを行う。
- c 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品 P L センターへの相談が推奨される。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	誤	誤	正
5	誤	誤	誤

【問 1 1 9】 一般用医薬品の主な安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アンプル剤は錠剤、散剤等に比べて吸収が速く、血中濃度が急速に高値に達するため、通常用量でも副作用を生じやすいことが確認されたことから、1965 年、厚生省(当時)より関係製薬企業に対し、アンフル入りかぜ薬製品の回収が要請された。
- b 一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が複数報告されたことから、厚生労働省は 2003 年に一般用かぜ薬全般につき、使用上の注意の改訂を指示した。
- c 芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとうとインターフェロン製剤の併用例による間質性肺炎が報告されたことから、1994 年に芍薬甘草湯しゃくやくかんぞうとうとインターフェロン製剤との併用を禁忌とする旨の使用上の注意の改訂がなされた。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	正
3	正	正	誤
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 1 2 0】 医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の持つ特質及びその使用・取扱い等について、正しい知識を広く生活者に浸透させることにより、保健衛生の維持向上に貢献することを目的として、毎年6月20日～7月19日までの1ヶ月間を「薬と健康の月間」として、国、自治体等による広報活動やイベント等が実施されている。
- b 薬物乱用や薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤、大麻等）によるものばかりではなく、一般用医薬品によっても生じ得る。
- c 一般用医薬品の乱用をきっかけとして、違法な薬物の乱用につながることもあり、その場合、乱用者自身の健康を害するだけでなく、社会的な弊害を生じるおそれ大きい。
- d 医薬品の適正使用の重要性に関しては、内容が難しく、誤った理解をさせてしまうおそれがあることから、小中学生のうちからの啓発は行うべきではない。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	正	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤